

2025

3

March
No. 385

広報みしま

Mishima Town Public Relations



大雪 当町を含む 19 市町村に災害救助法適用

2月5日、今季最強ともいわれる寒波の影響により三島町の全てを雪が埋めつくし住民生活に大きな影響をもたらしました。近年まれにみる豪雪で、町道や県道などの一時通行止めにより、孤立状態になることや、倒木により停電や断水になるなど多くの爪痕を残しました。

町としても積雪が障害となっている高齢者世帯を支援するため、除排雪等に全力で取り組んでいます。

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

自助・共助・公助とは？

「自助」は、自分自身で身を守る取り組みや行動を指します。災害発生時に、まず自分の命を守るために何をすべきか考え行動しましょう。

「共助」は、地域社会や会社など、身近な人々と協力して助け合うことを指します。災害時には、自分一人では対処しきれない状況が多くありますが、地域やコミュニティが一体となって協力することで、被害を最小限に抑えることができます。共助の精神は、普段からの町民同士の絆が無ければ成り立ちません。

「公助」は、政府や自治体、公共機関による支援を指します。基本的には、自助や共助ではカバーしきれない部分を補完するために行われます。

「自助・共助・公助」は、それぞれが独立しながらも互い補完し合っています。普段の何気ない会話や集いが強力な防災体制の構築につながります。

何気ない

普段の会話が

キーポイント



▲上ノ原住宅前



▲大石田地区



▲西方地区



▲運休中の線路（只見線）



▲西方地区



▲浅岐地区



▲間方地区



災害級の豪雪への対応

2月5日、近年まれにみる豪雪。朝起きると三島町は一面、白の世界に塗り替えられていました。2月7日には宮下地区で190cm、間方地区では270cmの積雪に達し、町民の皆さんは降り積もった雪の対応に追われました。

宮下地区に続く県道237号小栗山宮下線（長坂）では、除雪後に路面が凍結しスリップ事故が多発しました。

2月7日、福島県は「多数の人が生命または身体に危害を受けるおそれがある」として、「災害救助法」を申請し、最終的に県内19市町村が適用になりました。大雪での適用は県内で62年ぶりです。

松原地区では2月6日に大雪の影響で停電が発生。水道施設が停止、断水が起きました。そのため、昼夜を徹して復旧に努め、また、給水車による給水が行われました。他地区でも停電や倒木、家屋の破損・倒壊などが発生し、大きな被害をもたらしました。

町では急ピッチで道路の除雪を行い、特に自力で除雪などを行うことが困難な高齢者の方を優先し全力で支援にあたりました。

2月13日には、福島県応急対策職員派遣制度により、いわき市から職員が3名派遣され豪雪対応の協力やアドバイスをいただきました。また、15日には町職員による各地区避難所開設に向けた準備が行われ、緊急避難時の体制を整えました。

2月19日には、ボランティアセンターの立ち上げが行われ、町内外問わず三島町の救援に多くの方々がかけつけました。



▲町職員による給水の様子



▲間方地区の積雪（2月19日）

民話の語り部・五十嵐七重氏、福島県文化振興財団からの表彰を町長に報告

五十嵐七重氏が民話の語り部として、またその指導者としての功績が高く評価され、福島県文化振興財団より顕彰されました。その表彰式が2月6日に福島市杉妻会館で行われ、7日には五十嵐氏が来庁され町長に報告されました。これまでの歩みを振り返られ、皆様への感謝の意を表され、また今後の抱負も述べられました。

五十嵐氏は幼少の頃に両親から伝え聞いた民話のほか会津地域の民話を収集、20代初めの頃から語り部として活動してきました。平成6年以降は民話の収集・語り部としての活動のみならず、指導者として語り部の養成も担っています。その活動は町内にとどまらず、いくつもの市町村で講演・講座・教室等の講師を務めており、その回数はこれまでに1,400回を超えています。また県内8ヶ所において語り部の会の結成にも尽力されました。

3月下旬には、五十嵐氏が町内に伝わる昔話・伝説・世間話を再話し、またその解説を行った三島町史別冊『三島町の民話』が町から発刊予定ですので、どうぞお読みください。



▲左から矢澤町長、五十嵐七重さん、山口教育長

町民記者通信

みんなで「昔話」を楽しむ（1月25日）

小島 純さん（宮下）

宮下分館（近藤勇彦分館長）の「ふれあい事業」、「地区ふれあいのつどい」が、宮下活性化センターで開催されました。語り部「ちゃんちゃんこ」の方々をお招きし、昔話を語っていただきました。「キツネとカオス（カワウソ）」「キツネとタニシのはねやっこ」「かしや猫」「鬼昔し」「オリヤ」「スズメとサル」「鳥のみじいさん」などを語っていただきました。話の合間には子どもたちがあきないように、語り部さんたちが体を動かすなどの時間を取っていただきました。

終了後には、婦人会の方々に作っていただいた「すいとん」がふるまわれ、参加した皆さんは、おいしそうに食べていました。



子どもの歳の神（2月16日）

阿部 和彦さん（桧原）

例年にない大雪にも負けず、今年も桧原地区では春日神社前の広場で「子どもの歳の神」が実施されました。久しぶりに晴れ間の見えた午後1時、地区役員7名と協力者3名が会場に集まりました。1月15日に使われた御神木を再利用し10mから6mに切って短くし、新たな藁を巻いて御幣を取り付け「子どもの歳の神」が完成しました。

午後7時、区長の合図とともに子ども達が点火を行いました。地区の先人たちは、子どもたちに歳の神を通して成し遂げるための団結心、火の大切さや怖さ、物を大切に扱う気持ち、大人への成長を学ばせる試練・経験を与えたのだと思います。凛とした寒さの中、夜空へ向かって燃え上がる炎に子ども達の成長と安全、郷土愛を祈願しました。



令和6年度大雪災害記録（一部抜粋）				
月 日	発令された 警報・注意報	被害状況	宮 下	間 方
			積雪量	積雪量
1月8日	大雪注意報		33	115
1月9日	大雪注意報		75	137
1月10日	大雪注意報	・三島町豪雪対策本部設置 ・除雪が間に合わず、路線バスが遅れるなど交通に影響 ・町道川井西方線で倒木多発により通行止め	125	164
～		～	～	～
1月30日	大雪警報	・名入の JR 只見線踏切で遮断機が下りたままになる	105	194
1月31日			130	194
～		～	～	～
2月5日	大雪警報		113	211
2月6日	大雪警報	・県道（大谷倉掛付近）で倒木発生 ・長坂でスリップ事故発生 ・早戸温泉つるの湯が臨時休業（大雪で従業員が出勤できないため） ・道の駅尾瀬街道みしま宿が臨時休業（倒木による停電のため）	160	253
2月7日	大雪注意報		190	270
2月8日	大雪注意報	・桧原水道施設が停電のため、給水車を出す ・間方、川井、名入、大石田などで停電 ・三島町 SS への燃料供給のタンクローリーが来ない状況となり、燃料不足となる	210	258
2月9日		・大谷、浅岐、間方方面で停電 ・屋根からの落雪が多発 ・桧原水道施設が回復せず復旧作業が続く。（10日までに復旧）	215	258
～		～	～	～
2月15日		・各所で落雪により交通障害発生 ・いわき市から応援職員3名が来町し災害対策支援を実施（15日まで）	145	226



▲大雪後の三島大橋

(3) 冬季間や雨天でも利用可能な屋内運動場を整備する

- ・天候に左右されないで運動やイベントが行えると良いので。(30 歳代)
- ・天候が悪くても使えるように。(40 歳代)
- ・雨天や冬期間利用することが、運動不足の解消につながり、健康にもつながるのではないだろうか。(80 歳以上)
- ・近隣町村にはないような施設を整備し、相互に利用し合っていく方が良い。(30 歳代)
- ・隣町の運動場では、用具の準備、移動が大変で、参加する人数が減る可能性が大と思われるから。(60 歳代)

(4) カタクリや中学校の校庭、隣町の運動場を利用することで整備する必要はない

- ・ひとまず既存の施設を活用していく。それで、不都合があれば新たな方法を考える。(40 歳代)
- ・今後人口減少は容易に予想ができる状況で新設という選択はなく、運動場等は近隣町村を利用させていたがくのが賢明であると考えます。まして、既存の建物を放置している状態では、先を生きる者に負担を増やすばかりである。(60 歳代)
- ・人口減少している今、新たに作るのではなく、今ある施設や運動のできる所を活用することが望ましいと思います。(70 歳代)

◇自由意見 ※その他ご意見がありましたらお聞かせください

○運動場・健康増進施設・公園等のニーズについて

- ・温水プールがあったら良いと思う。遊泳コースや水中ウォーキングコースなど冬は運動不足になりがちなので、年中使用できる施設（プール）があったら良い。(60 歳代)
- ・子供の屋外・室内の遊び場の不足を以前から感じています。子供が自由に遊びに行くことができ集まったり、身体を動かしたりする場所は絶対に町にあって欲しいです。メディアコントロールとか問題視されますが、集まったり身体を動かしたりする場所がなければ、ゲームなどをやるようになってしまうのもわかる気がします。(40 歳代)

○町内の既存施設の活用について

- ・学校施設の使用が可能であれば、世代間交流の場として良い。(80 歳以上)
- ・病院の跡地、ふるさと荘の隣接の建物、カタクリの前広場、旧西方児童館、大林の管理棟など古くなり使用していない所をもっと活用してほしいと思います。(60 歳代)

○隣接町村の施設の活用について

- ・隣接町村の施設利用も良いと思います。例えば室内ゲートボール場案。今もゲートボールは柳津スパーク利用させて頂いています。(80 歳以上)

○病院周辺エリアについて

- ・総合運動公園とし、災害時も病院も近くにあり、防災機能を備えた、子供、老人も安心して集える場所であるべきだと思います。もちろん町民全ても。(70 歳代)

○施設づくり・まちづくりについて

- ・既存の町施設(カタクリ、物流館)をどのように利活用するのか、今回の運動場等の整備計画と合わせて検討すべき。部課間の壁を取り払って総合的な検討が必要。(70 歳代)

町ではこのアンケートの結果を踏まえ、健康増進施設等の整備について改めて検討していきます。

健康増進施設等の整備に関するアンケートについてお知らせします

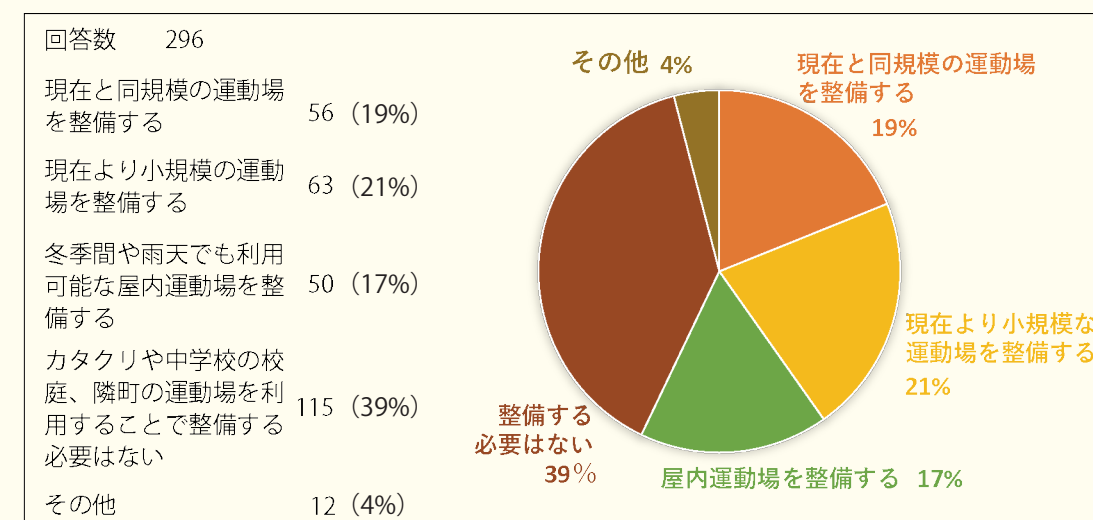
前回に引き続き、運動場等の整備に対するアンケート調査の結果を一部抜粋にてお知らせいたします。アンケートの全調査結果については町ホームページにて公開予定です。

【実施時期】 令和 5 年 12 月 1 日(金)～ 13 日(水)

【配 布】 町内の全世帯(658 世帯)へ配布
世帯の代表者(町民運動場の利用回数が最も多い方)へ回答依頼。各地区の区長または役場へ提出

【回 収】 302 (回収率 45.9%)

◇運動場の整備についての考えをお聞かせください



(1) 現在と同規模の運動場を整備する

- ・小さな町だからこそ小規模にするのではなく現状ぐらいの運動場がほしい。イベントをやるにも小さいと観光目的にも使いづらいかと思う。(50 歳代)
- ・屋根付きの方が良いと思うが、お金の方もかかると思うので、同規模とし、小規模となると使用もあまりしなくなりそうなので。また、カタクリなど、使用するのが良いと思うが、整備も必要だと思う。(60 歳代)
- ・健康のために運動できる場所はあった方が良い。(30 歳代)
- ・道の駅から広い駐車場、スタンドを整備したので、国道 252 号沿い、工人まつりやイベント、雪まつりなどを考えると現在の運動場大登平がすべての利用に良いと思います。また、他の町村からも国道沿いが良いです。(60 歳代)

(2) 現在より小規模な運動場を整備する

- ・新しく公園を作ることは財政的に今後むずかしくなると思われるので、既存の公共建物の近くにこじんまりに数多くつくる。(未回答)
- ・ソフトボール、野球、町民運動会ができる規模の運動場は必要かと思います。(70 歳代)
- ・利用状況からみて野球場のような大きなものはいらない。(60 歳代)
- ・少子高齢化に伴い縮小。(70 歳代)

地域循環コラム 第8回

～薪ボイラーの評価について（その1）～

今回は、以前開催した三島町地域循環共生圏推進協議会幹事会で議題となった木質バイオマスエネルギー導入事業の検討状況について報告します。

本事業は、昨年度まで、木質チップを燃料とした小型発電設備の導入を目指していましたが、設備の信頼性や燃料供給面の不安から計画を見直すことになりました。それでも森林資源の利活用拡大のためには、木質バイオマスも必要と考え、発電ではなく熱供給として木質バイオマスボイラーの導入可能性を調査しました。

◆導入候補となる施設と設備

導入対象は、一年通して熱が必要な温泉施設の給湯利用を前提としました。ですが、町の温泉施設の規模を考えると、比較的小さな設備で、燃料も町産材の製造が容易なものが望ましく、そうなってくると、生活工芸館に設置されている薪ボイラーのような設備が有力となります。



◆生活工芸館の薪ボイラー評価

しかしながら、新たな薪ボイラーを設置する前に、町内に今あるボイラーの評価も必要です。そのため、温泉施設への可能性調査と並行して、工芸館の薪ボイラーについても振り返ることにし、まずは目に見えるコスト面から評価を行うことにしました。ただ、薪ボイラー導入時には、それまで暖房のみだった館内の空調設備に、冷房を加えるなど空調システムを一新しています。導入前後のコスト比較だけでは正當に評価することができないため、現行の冷暖房システムをベースに、熱源を灯油(100円/L)・電気(27円/kwh)にそれぞれ変更した場合の15年間(設備のライフサイクル期間)のトータルコストを算出することにしました。

システム名称	薪	灯油	電気
①導入費(補助金等の適用含む)	14,054 千円	1,200 千円	6,683 千円
②年間運転費	1,614 千円	1,280 千円	3,347 千円
③15年間トータルコスト	38,267 千円	20,404 千円	56,893 千円
薪との15年比較		-17,863 千円	18,626 千円

結果的には、灯油>薪>電気の順に15年のトータルコストが低くなり、コスト面では灯油が優位にあります。しかし、灯油の場合は、年間の灯油代が約1,100千円、15年間では約16,500千円にも上り、それらのお金は町外に出ていくものになります。一方で、町産材の薪を使用すれば、薪費は町内の事業者を支払われることになり、お金が町内に留まります。その他にも森林資源の利用は、森林整備の促進や環境保全などの様々な波及効果が考えられます。これらの波及効果を可視化していくため、国立環境研究所が社会的インパクト評価という手法を用いて引き続きボイラーの評価を進めています。

また、導入候補の温泉施設でも同様の評価を行っていますので、次月号では、それらを含めた検討状況の続きを報告したいと思います。

☎ 地域政策課 ☎ (48) 5533

すぐわかる！すぐできる！ 花粉症対策ダイジェスト

vol.100

健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係 ☎ 48-5565

花粉症は花粉に対するアレルギーです。発症するとくしゃみや鼻水、目のかゆみや涙目などの厄介な症状が長く続きます。花粉をできるだけ避ける(暴露を防ぐ)ことが発症や悪化の予防に重要です。花粉には2月頃から飛散する種類もあるため、早めに対策し花粉症を予防しましょう。

【花粉を寄せ付けない！花粉症対策】

・マスクや眼鏡の着用

マスクをしない場合に比べて、通常のマスクでも花粉をおよそ70%削減し、花粉症用のマスクではおよそ84%の花粉を減少させる効果があったと報告されています。防御力バーのついた花粉症用の眼鏡は目に入る花粉量を大幅にカットすることができます。



・上手な洋服選び

ウール製の衣類などは、木綿や化繊に比べて花粉が付着しやすく、花粉を屋内に持ち込みやすいので、外出の際の服装にも気をつける必要があります。また、露出している頭、顔、手などは花粉が付着しやすいので、つばの広い帽子や手袋の着用も有効です。



・換気に一工夫

レースカーテンを使用し、開窓の幅を10cm程度にすることで、侵入する花粉は約1/4に減少します。晴れて気温が高い日や風の強い日、雨上がりの翌日、時間帯では昼前後や夕方など、花粉が多く飛散しているときの換気は短めに行いましょう。

・外から帰ったらまず「うがい」

鼻から吸い込んだ花粉は、鼻粘膜の線毛の働きで喉の方へと送られます。「家に帰ったらガラガラうがい」を習慣づけて、喉の花粉を洗い流しましょう。

【受診のタイミング】

花粉症と思われる症状が出た場合は早めに受診することが重要です。毎年花粉症の症状が出る方は、症状がごく軽いつきからお薬の使用を開始することで、症状を抑えられることがわかっています。

図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

●利用時間

月～金 午前9時～午後9時
土・日・祝 午前9時～午後5時

●お休み

年末年始

☎ 公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ

謎の香りはパン屋から

土屋 うさぎ 著



大学1年生の市倉小春は、同じ職場で働く由貴子と一緒に見るように誘われたライブビューイングをいきなりキャンセルされてしまう。誘ってきたのは由貴子なのに断ってきたことを疑問に思った小春は彼女の行動を振り返り、推理し、驚くべき事実にとどろく。

バイト仲間やお客さんのささやかな謎を解き明かしていく日常の謎ミステリー小説。

●図書の紹介



PRIZE

村山 由佳 著



幸村を討て

今村 翔吾 著



本を読んだことがない
32歳がはじめて本を読む

かまど・みくのしん 著

令和6年度三島町地域おこし協力隊活動報告会

【日時】令和7年3月28日(金) 午後3時から

【場所】三島町町民センター 視聴覚室

三島町が抱えている課題を解決するため地域おこし協力隊員として日々活動している2名の協力隊員が、日々の活動内容や活動をとおして感じたことなどを発表します。活動報告会には、どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

【発表者】



産業建設課配属
農産物PR業務(3年目)
にしだ せいや
西田 星弥



産業建設課配属
鳥獣対策専門員(2年目)
すずき りょう
鈴木 亮

同日開催！ 令和7年3月15日(土) 16日(日)

第44回三島町生活工芸品展

場 所／三島町生活工芸館

開催時間／15日(土) 9:30～16:00
16日(日) 9:00～15:00

三島町の工芸品の原点である「生活工芸」。

雪国の暮らしの中で作られ、使われてきた工芸品がここにあります。

編み組品をはじめ、木工品や染織等、三島町在住の工人の手作りの品が集まります。

☎三島町生活工芸館 ☎0241 (48) 5502



第24回全国編み組工芸品展

場 所／三島町交流センター山びこ

開催時間／15日(土) 9:30～16:00
(8:30より表彰式開催)

16日(日) 9:00～15:00

編み組細工展示販売、奥会津編み組細工実演コーナー 等

【飲食出店】キッチン MORy・SampSon・ハシノハシ

☎奥会津三島編組品振興協議会(三島町生活工芸館) ☎0241 (48) 5502



地域おこし協力隊活動誌

いよいよ最終年となり

西田 星弥

地域おこし協力隊の西田です。令和6年度最後の地域おこし協力隊活動誌となります。まずは私個人のお話をさせていただきます。

まもなく令和6年度が終了するにあたり、私の任期も残り3か月となります。活動誌を書くことも残り1・2回のため先んじてお世話になった方々にはお礼を申し上げます。すべて順調に進んだわけではないため、力不足な部分もありましたが大変学びの多い3年間でした。残りの任期は少しでも協力隊としての意義を残すために善

処したいと思っています。そしてメインで携わっているECサイトについてですが、引き続き販売を促進するための土台作りを継続しています。ただ、やはり注文がどんどん入るような状況にはいまだ至っており、正直なところは苦戦中です。状況が状況なだけに他の生産者や事業者を巻き込むのは難しく、商品の拡充にも着手できていない状態ですが、最後まで最善を尽くしコストゼロから少しでも集客に貢献できるよう挑戦したいと思っています。残りの短い期間でも好転すれば積極的に施策を行いたいと考えていますので、その際は関係者各位、ご協力いただけますと幸いです。

編み組細工の歴史と発展

ヒロロ細工の歴史

マタタビ細工の歴史

山ブドウ細工と福島県の伝統工芸

桐と福島県の深い結びつき

えごまの葉：健康と美味しさを兼ね備えた自然の恵み

オメガ-3脂肪酸の健康効果と取り入れ方

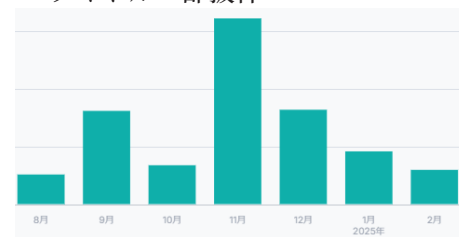
会津地鶏の魅力と健康効果

福島県オリジナルブランド米：天のつばと里山のつばの魅力

福島県三島町：奥会津の自然と文化が織りなす魅力

えごま：健康と美容を支える自然の力

▲ EC サイト掲載記事
タイトル一部抜粋



▲ EC サイトのアクセス数

冬のものづくり教室閉会 - のべ 236 名が参加 -



山ブドウ手提げ完成

1月11日(土)から始まった冬のものづくり教室が2月23日(日)で最終日を迎えました。町と生活工芸運動友の会の共催による編み組細工の教室で、町内の工人さんを講師としてお迎えし、毎週土日に山ブドウやヒロロ、マタタビ細工の3種類の教室を開催しました。町内をはじめ、遠くは京都や神奈川など他県からもお越しいただき、延べ236人の方に参加いただきました。

全14回の予定のなかで、途中、大雪の影響により内2日間が中止となり、12回の実施となりました。今年初めて製作を開始された参加者もしっかり通って山ブドウの手提げを一つ完成させていました。

参加の皆様には、3月に行われる三島町生活工芸品展や全国編み組工芸品展へ出品いただけるようお声をかけています。3月15・16日(土)は、ぜひ、生活工芸品展の会場へお越しください。



閉校式の様子



マタタビ四ツ目笥完成



雪に囲まれる生活工芸館

【工芸館からのお知らせ】

3月15・16日(土)第44回三島町生活工芸品展・第24回全国編み組工芸品展開催。前日14日(金)は14:30より「生活工芸品展表彰式」および「内覧会」を実施します。

☎三島町生活工芸館 ☎(48) 5502

工芸館だより(46)ものづくりの伝承



国環研だより 第79回 大雪をもたらす JPCZ に注意！

三島町の皆さま、こんにちは。2月の上旬頃から全国的強い寒波の影響で日本海側を中心に記録的な大雪となる地域が出ています。今回はこの大雪に関するお話をさせていただきます。

福島県でも大雪による被害が出ており、2月14日に開かれた福島県の公表によると死者が2名、重軽傷者は29名にも上っているとのことです。また会津地方の12町村ではビニールハウスの倒壊などの被害が324棟確認されたとのことです。この記録的な大雪に対応するためにかかる費用として、県は29億円余りの補正予算案を発表。また大雪による適用は62年ぶりとなる「災害救助法」が適用されるなど大変な事態となっています。

最近では雪が少なくなった、と感じている方も多いと思いますが、なぜ今年は大雪・大寒波となったのでしょうか。

■ JPCZ ってなに？

このところニュースでも耳にするようになった気象用語で「JPCZ」というものがあります。これは「日本海寒帯気団収束帯 (Japan-sea Polar airmass Convergence Zone)」と呼ばれるもので、特に冬の時期にシベリア寒気団からの冷たい空気が日本海側の海域に流れ込み、暖かく湿った空気を取り込むことで発達した雪雲となることで、夏の大雨をもたらす線状降水帯のように日本海側の地域に大雪をもたらします。平成30年2月に福井県で記録的な大雪が降り、北陸自動車道などが通行止め、およそ1500台の車が立ち往生してしまったことがありましたが、それもJPCZが発生したことによる影響とされています。そのJPCZが今年も発生しているため、今回のような大雪になった、ということです。



※ JPCZ は大陸からの気流が山脈で分断され再び日本海で合流することで発生する
(出典:「日本海側に大雪をもたらす JPCZ とは？」ウェザーニュース)

■地球温暖化が与える影響

地球温暖化が進むと JPCZ のような大雪をもたらす現象がどのように変わっていくのか、現在も観測と研究が進められていまして、今のところいくつかの可能性があるとされています。1つめは温暖化が進んで日本海の海水温が上昇することで、海面から蒸発する水蒸気の量が増え、それを JPCZ が取り込むことで雪雲の発達が強まってドカ雪の頻度が高まる可能性があることです。2つめは、温暖化がさらに進むことでシベリア寒気団が弱まり、JPCZ の発生頻度や強さも弱まる可能性もあるようです。最後に3つめとして、気温の上昇によって大雪ではなく大雨として降るようになる可能性もあり、これまでなかったような冬の豪雨を警戒する必要があるかもしれません。

気候変動、地球温暖化は気温の上昇だけでなく、大雪をはじめとしたさまざまな災害にも大きく影響すると考えられています。実際に今起こっている災害に万全を期した対策をすることはもちろん、以前にもお伝えした気候変動対策の「緩和」や「適応」も災害に対して重要な取り組みですので、ぜひ普段の生活からこれらの取り組みを意識してみてください。

寒い地域では断熱性能を上げることで冬の省エネや灯油代、電気代の節約に大きな効果が期待できますし、高断熱での暖かい家での暮らしが医療費の低減と健康寿命を延ばす効果があるという研究成果も出ているので、ぜひできる範囲から取り組んでみてください。

【参考文献】

- ・福テレ「福島・会津地方の大雪被害 死者2人重軽傷29人 農業用ハウス倒壊324棟 次の寒波に注意呼びかけ」
<https://www.fukushima-tv.co.jp/localnews/2025/02/2025021400000010.html>
- ・NHK「福島県2月補正予算案 記録的な大雪を受けた除雪費など盛り込む」
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukushima/20250220/6050028878.html>
- ・ウェザーニュース「日本海側に大雪をもたらす JPCZ とは？」
<https://weathernews.jp/s/gensai/handbook/page6-1.html>
- ・JAMSTEC 付加価値情報創生部門「JPCZ (Japan-sea Polar airmass Convergence Zone):日本海寒帯気団収束帯」
<https://www.jamstec.go.jp/apl/hotspot2/terms/jpcz.html>
- ・文部科学省及び気象庁「日本の気候変動 2020」
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/2020/pdf/cc2020_honpen.pdf



とぎわ たつひこ
筆者 常盤 達彦

● 国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

町史編さん室だより

第110回

『宮下大火』とその復興(4)

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。

☎(52)2165

昭和17年(1942)4月11日に起きた「宮下大火」と呼ばれる大火災に關し、今回は同年9月から翌年1月までの動きを、遺された資料から確認していきます。

宮下村役場日誌によれば9月14日に復興委員会があり、そして次の20日の記事を初出として、以降18年の末まで、毎月とっていいほど、宮下の個人宅や事務所等の上棟祝や移転祝があり村長等が招待された、役場吏員が棟上げや建築の手伝いに行った、そのために休んだ、といった記事が散見されるようになります。翌21日には川口村からの帰途に衆議院議員の助川啓四郎が火災見舞いに、知事代理の供進使と共に来村しています。

10月には『大沼郡宮下村第一回復興報告書』が作成されました。報告書は荒地整理・宅地整理・道路関係・公共施設関係・家屋建築関係・復興資金・資材関係といった項目ごとの、進捗・入手状況等を記したもので、10月の段階でどこまで進んでいるか、どのように進める予定であるかがわかります。役場日誌から10月・11月の宮下復興関係の主な記事を挙げると、10月6



▲昭和17年か宮下大火後、建築中の家屋(宮下五十嵐 郁子氏 提供)

日から10日間ほど、県土木部監理課の職員2名が宮下において実地測量を行っており、9日には土木監督所建築に關して、管内町村(柳津・西方・西山・川口・横田出席、沼沢・昭和欠席)を集めて協議会を開催、11日には土木監督所長宅の建築について村会議員による協議会を開いています。11月11日には宮昌寺において大政翼賛会文化部の人見某と会津文化協会古沢某、村長の二瓶貫一を中心に復興座談会を開催しています。

12月に会津文化協会によつてまとめられた『宮下復興報告』によれば、家屋としては今年度70戸の建築、来年度に住家30棟、非住家10余棟で家屋復興が終了予定であるとしています。また報告には「ガラス其他一部物資は現品入荷なきため対策に奔走」とあります。役場日誌を確認すると、12月7日から「硝子ノ件」で村長が上京するとの記事があり、18年8月9日に「復興建築用硝子送荷の報」があったとし、12日に硝子を配給しています。

関連して72戸の家々の上棟月日・業種・総坪数・家主の氏名などが記された宮下村復興委員会による『宮下部落復興建築進行表』も遺されています。この進行表により、当時の宮下にあった官民その他の業種がある程度把握できます。記載された業種等を列挙すると、「大工職匠宅」「土木事務所」「旅人宿」「巡查駐在所」「農家住宅」「料理屋」「理髪店」「鮮魚店」「住宅」「下駄商」「米穀商業組合」「麹製造業」「表具師」「呉服商」「飲食店」「郵便局舎」「豆腐商」「製粉工場」「雑貨商」「大工職住宅」「塩商」「青果商」「製綿工場」「飲食店」「玩具店」「自転車店」「小間物店」「薬種店」「荷

馬車業」「貸家」「下駄製造」「時計店」「製材、自動車」「土木監督所長」となります。旅人宿や飲食店、料理店などは複数あり、当時の宮下の隆盛がうかがえます。この宮下の復興は大政翼賛会の関心事でもあったようです。17年12月15日には復興状況の視察に東京から調査委員が会津文化協会とともに来村しています。3時間程度の滞在でしたが、写真を各所で撮り、実地現状調査を行ったといえます。その調査委員として、岸田日出刀・吉植庄亮・和田傳といった著名な人物の名が役場日誌で確認できます。

翌18年1月6日には福島放送局放送係の和田明が「宮下大火」復興状況の放送協議のために村を訪れており、12日には「理想ノ宮下村建設」と題し、二瓶貫一村長による語りが午前9時半より25分間、ラジオで放送されたよう、県内においても大火やその復興に対し関心が高かったことがうかがえます。

(町史編さん室)
※引用文の旧字は常用漢字にし、難読字にはルビを振っています。

三島町SS（ガソリンスタンド） 町民等割引クーポン更新手続きのお願い

三島町SSでは、町民の方や特別町民の方を対象に、給油金額を割引するクーポンを配布しておりますが、1年ごとに更新手続きが必要となります。

現在の割引クーポンの有効期限は、令和7年3月31日㊤までとなりますので、更新の際には、スタンド事務所にて運転免許証など（町内に住所があることを確認できる証明書）をご提示の上、お手続きをお願いします。

【運営事業者】 桐の里産業株式会社（給油所）

☎ 52-2050

【営業時間】 7：00～19：00

【休業日】 毎週木曜日



問 地域政策課 ☎ (48) 5533

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました

ふるさと納税（1月分）

佐藤純子様（群馬県）

寄附件数9件 計85,000円

町の人口と世帯（2月1日現在）

人口	1,326	増減数	-1	出生	1
男	676		-1	死亡	2
女	650		0	転入	0
世帯	673		0	転出	0

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

サロンないり	ひまわりサロン
3月24日㊤ 午前10時から 名入集会所	3月10日㊤ 午前10時から 町民センター
ほがらかサロン	滝谷和楽塾
3月25日㊤ 午前10時から 森の校舎カタクリ	3月11日㊤ 午前10時から 滝谷集会所
間方いきいきクラブ	サロンなごみ
3月26日㊤ 午前10時から 間方集会所	3月13日㊤ 午前10時から 西方ふるさとセンター
	高清水・小山 いきいきサロン
	3月14日㊤ 午前10時から 高清水集会所



町社会福祉協議会へのご寄附
（一般のご寄付）

東北電力（株）会津若松支社

問 社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ三島通信で
健康教室を放送中です。

3月「梨状筋症候群とストレッチ」
です。ぜひご覧ください。



問 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

3月分納税のご案内 【納期限 3月31日㊤】

- ▼ 国民健康保険税（随期）
 - ▼ 介護保険料（普通徴収）（随期）
 - ▼ 後期高齢者保険料（普通徴収）（随期）
- 忘れずに納付ください。

問 町民課 町民係 ☎ (48) 5555

会津坂下警察署からのお知らせ

～あなたが狙われているかも！～
突然、訪問する悪質買取業者にご注意！

【ケース1】何でも買い取ると電話がくる
訪問の買取を承諾。その後、来訪。買取を承諾した物品には目もくれず、「貴金属はないか。」と言われ、強引に貴金属を買い取られてしまった。

【ケース2】突然、訪問してくる
突然、訪問され、訳が分からないうちに貴金属を買い取られてしまった。

【ケース3】売却した物を取り戻せない
契約書等の書面がなく、買取業者名・住所・電話番号等も分からないので、売却した物を取り戻せない。
※ 業者名が分かっても、クーリングオフができないと言われたケースもあります。

【ケース4】貴金属を盗まれる
目を離した隙に、箱から貴金属を抜き取られたり、貴金属を持って立ち去られたりして、貴金属を盗まれた。

《被害に遭わないために》

- 突然訪問してきた業者を、家に入れない!!
- 買い取ってもらうつもりがない場合は、きっぱり断る!!
- 業者名、住所、電話番号を確認し、許可書等を提示させる!!
- 複数人で対応し、貴金属から目を離さない!!
- 買取条件などの書面を作成させ、控えを受領する!!
- 業者がしつこく勧誘してくる、契約を断っても帰らない場合は、すぐ110番通報若しくは最寄りの警察署に通報!!

問 会津坂下警察署警務係 ☎ 0242 (83) 3451

豪雪被害に関わる免除・減額について

令和7年2月4日から的大雪により被災された方々について、「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」に基づき、住宅ローンなどの免除・減額を申し出ることができます。同ガイドラインの概念は一般社団法人東日本大震災・自然災害被災者債務整理ガイドライン運営機関ホームページ（<https://www.dgl.or.jp/>）をご覧ください。



▲ホームページは上QRコードから

問 東北財務局福島財務事務所理財課
☎ 024-535-0303

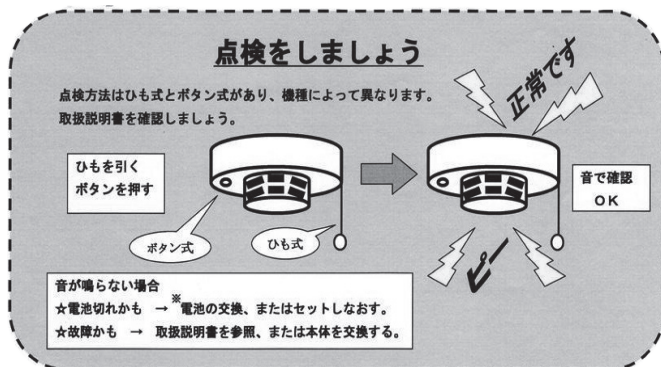
消防署からのお知らせ

住宅用火災警報器は
設置してから約10年を経過すると
電池切れや交換の時期を迎えます！

住宅用火災警報器は
維持・管理が大切です！



住宅用火災警報器はすべての住宅の寝室と寝室が2階以上にある場合の階段に設置が義務となっています。



問 会津坂下消防署 三島出張所
☎ (52) 3032 / FAX (52) 3033

『春よ来い！冬のマルシェと花火大会』

2月15日(土)開催を予定しておりました「第52回雪と火のまつり」が大雪により中止となりましたが、日々除雪に追われる町民の皆様の活力となるよう、地域活性化を目的にミニイベントを開催します。からんころん横イベント広場を利用したマルシェと花火打上のみとなりますが、春の訪れを喜ぶイベントとして楽しんでいただければと思います。

【開催日時】 令和7年3月15日(土) 15:00～18:30

【場所】 宮下地区「観光交流館からんころん」イベント広場

【内容】 1 マルシェ「からんころん横丁」

町内事業者による模擬店の出店 15:00～18:00

2 花火大会：大登字上中川井地内から18:15より打上げ(10分～15分)

主催 雪と火のまつり実行委員会

共催 三島町 三島町観光協会

☎雪と火のまつり実行委員会(三島町観光協会) ☎(48) 5000

町長日記 人口減少社会は「富の分配が可能か」

No. 103

2025年の重要な施策は、国や都道府県はもちろんですが、日本全国の市町村も足並み揃えて「人口減少対策」と「ジェンダー対策」であると言われています。

全国各町村この課題に対応するべく施策を検討し今後進めていくこととなり、これまで様々な方々とこの課題に対し意見交換をしてきましたが、明確な答えはなく、県をはじめ市町村という行政組織において総合的に取組んでいくことでしか活路はないというご意見でした。

本町でも、第5次三島町振興計画重点プロジェクトとして「人口減少対策」と「地方創生の推進」を掲げ、早い段階から子育て世代に対して保育料や学校給食の無償化をはじめ様々な施策を進めてきましたが全国で様々な取組みが進められるなかで、やはり最後は都市部への人口集中という構造が大きく変わるといことはなかったようです。

移住対策についても同じであり、移住される方の取り合いとなつてしまします。ここをクリアし、それぞれの市町村が持つ魅力を生かし、これまでできなかった市町村間での制

度・財政等の相互支援体制を構築するなど、他にはない会津という広域で独自の取り組みなどを組み立てることができればと考えておりました。

その後、企画調整部長にお会いする機会がありまして人口減少対策を各地方振興局に担当者を設置して県としても力を入れていくという返事をいただき、この分野を推進する展開が見えてきたところであります。人口減少対策とジェンダー対策の視点は、総合行政として、現在の豪雪対策と同様に各課と連携・協力しながらこの難局に挑戦していきたいと思ひます。

本来ですと、この難局を乗り越えるためには福島県各振興局ごとに結集しながら、お金の流れを変える事を含めて、地域循環共生圏の確立、持続可能な圏域を創造し求めて行くことが非常に大切であると考えます。そのためには、医療や環境そして地域資源や自然そして交流連携の理念を皆で議論することによって、新しい会津平坦部や只見川電源流域のビジョンを作るための基礎づくりを進めて行く必要があると確信しています。

三島町長 矢澤 源成